

# ガチロック

## 新発売!



特許出願中

1 / ワンタッチ継手だから省施工（施工時間短縮）

2 / ワンタッチ継手だから施工品質が安定（特殊技能不要）

3 / 火無し工法だから火災・火傷の心配なし

4 / 銅管から樹脂管への変換継手もラインアップ  
（架橋ポリエチレン管、ポリブデン管に変換）



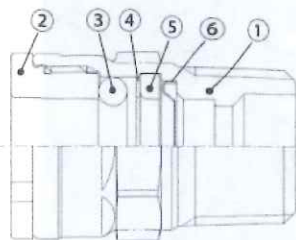
# 仕様

使用温度範囲	0～75℃(凍結しない温度)			
使用圧力範囲	1.0MPa 以下			
適用銅管	JWWA H101	JIS H3300	JIS H3330※1	
※1 被覆を剥がして使用してください。				
銅管サイズ	10A (12.7)	15A (15.88)	20A (22.22)	
肉厚	M	0.64 mm	0.71 mm	0.81 mm
	L	0.89 mm	1.02 mm	1.14 mm

# ラインアップ

銅管サイズ	オス	メス	ソケット	エルボ	チーズ	樹脂管変換継手 (樹脂管サイズ)
10A(12.7)	○	○				○ (10A・13A)
15A(15.88)	○	○	○	○	○	○ (13Aのみ)
20A(22.22)	○	○	○	○	○	○ (13Aのみ)

# 構造



No	部品名	材質
①	胴	青銅
②	ナット	樹脂
③	Oリング	合成ゴム
④	ワッシャー	樹脂
⑤	止め輪	樹脂
⑥	ロックリング	ステンレス

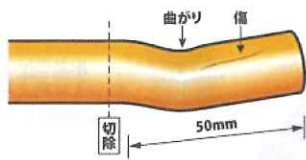
# 施工手順

施工前には必ず「施工要領書」をお読みください。

ガチロック  
施工要領書

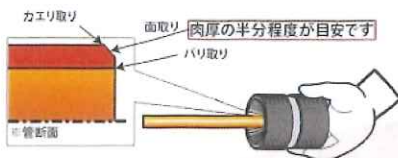


## ① 管の確認



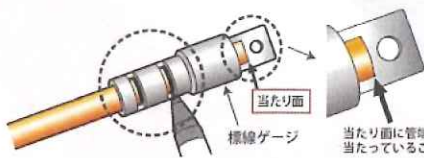
・管端から50mmの範囲で管に傷・曲がり・扁平・熱劣化・内外面への異物付着がある場合は、その箇所を切除してください。

## ② 管内面のバリ取り・管外面の面取り



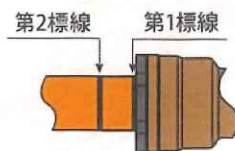
・内面のバリ取りを行ってください。  
・念入りに外面の面取りを行ってください。  
※管外面にカエリが発生する場合は、耐水ペーパー(#1000以上)で円周方向に磨いてカエリを除去してください。

## ③ 標線のマーキング



・標線ゲージに管を通し、管端面が確認窓の当たり面に当たっていることを確認した後、指定の油性マジックで標線2本をマーキングしてください。  
・専用工具【標線ゲージ 品番:F0G】を必ず使用してください。  
※管端面が確認窓の当たり面までスムーズに挿入出来ない場合は曲がり大きい部分の切除を行うか、当社専用工具【矯正工具 品番:F0TW】を使用し、管端の精円矯正を行ってください。

## ④ 管を継手へ挿入



・管を継手の奥に当たるまで挿入してください。  
このとき、継手端面と第1標線が一致していれば、適正な位置まで管が挿入されています。

# 株式会社 タブチ

〒547-0023 大阪市平野区瓜破南2丁目1番 (本社・工場)  
TEL 06-6708-0150 (代) FAX 06-6708-0210

ホームページ <https://www.tabuchi.co.jp/>

ホームページはこちら▶



## 検索機能充実の

WEBカタログはホームページから!  
TABUCHI WEB CATALOG



商品の問合せは **0120-481-130**  
受付時間 9:00～18:00(土・日・祝日・夏季休暇・年末年始を除く)

### 注意事項

#### ■施工上の注意点

- 本継手の使用条件をよく確認してから使用してください。
- 本継手は給水給湯配管用の専用継手です。冷媒、医療ガス等の用途には使用できません。
- 継手は適用する銅管 (JWWA H101, JIS H3300, JIS H3330) にのみ使用し、その他の銅管には使用しないでください。
- 被覆銅管の皮むき作業はカッターナイフ等の刃物を使用しないでください。
- 本継手は土中埋設には使用できません。
- 屋外で本継手を使用する際は、必ず直射日光が当たらないよう耐候性カバー及び耐候性テープ等で防護してください。また、雨水が入り込まないようにしっかりと防護してください。防護しなければ腐敗の原因となります。
- 本継手は一度施工すると外れない構造になっていますので、再使用は出来ません。
- 本継手は絶対に分解しないでください。漏れ、脱着等施工不良の原因となります。
- 近傍で口付けする場合は、200mm以上の距離を取り、濡れ雑巾などで本継手への熱伝導を防止してください。熱が加わると内部部品が損傷し、漏れの原因となります。
- 本継手接続後に継手直近での曲げ加工は漏れの原因となります。必ず継手側面から50mm以上は直線部を確保してください。
- ペンダー等を使用して曲げた配管に継手を接続する場合には、必ず曲げの影響が無く変形 (扁平) の無い直線部を50mm以上確保してください。
- ペンダーによる曲げ傷が付いている箇所への接続は、漏れの原因となります。
- 継手を支点にして曲げるような使い方をしないでください。
- 既設配管に使用する場合は、既設口付け箇所より200mm以上離してください。
- 落下等により変形した継手は使用しないでください。
- 継手の差し込みは管と平行な状態で行ってください。特に挿み合わせ配管の場合は、斜めからの無理な差し込みは行わないでください。
- ネジ付きの継手は、先に奥側へねじ込んでから管を接続してください。
- 継手の施工後、銅管を1回転以上回転させないでください。
- 継手の施工後、接続部に外的負荷がかからないよう配管固定などを行ってください。
- 火器などによる加熱によって、製品に直接的および間接的に使用温度範囲以上の熱が伝わらないようにしてください。熱によって内部Oリングが損傷する恐れがあり、漏れや劣化の原因となります。

### 安全に関するご注意

- 使用条件をご確認の上、器具を選定ください。
- ご使用前に「施工要領書」をよく読んで正しくお使いください。
- 取扱いを誤りますと、故障や事故及び、財産損害発生のおそれがあります。

#### ■保管上の注意点

- 炎天下や極寒の場所に放置せず、屋内に保管してください。
- 保管場所に溶剤、ペンキなどを置かないでください。溶剤やフラックスなどが付着すると継手が劣化する恐れがあります。
- 保管場所では、火を使用しないでください。火の粉や熱によって継手が劣化する恐れがあります。
- 使用する直前まで包装袋から取り出さないでください。継手内部にゴミ、ホコリが付着する可能性があります。
- 直射日光の当たった所で保管しないでください。